

茅ヶ崎館所見（案）

関東学院大学 水沼淑子

名称	茅ヶ崎館
所在地	茅ヶ崎市東海岸南
構造・規模	玄関棟 木造平屋建 瓦葺寄棟造？ 広間棟 木造平屋建 瓦葺入母屋造？ 浴室棟 木造平屋建 瓦葺寄棟造？ 中2階棟 木造2階建 瓦葺寄棟造？ 長屋棟 木造平屋建 瓦葺寄棟造？
規模	
建年	大正15年（〇〇による。但し浴室棟浴室部分は震災前）
所有者	森 浩章
所有者住所	

所見

1. 地域の歴史の中での価値

茅ヶ崎館は茅ヶ崎海岸にほど近い小高い松林の中に建つ明治32年創業の茅ヶ崎きっての老舗旅館である。当初茅ヶ崎館を営んでいたのは といわれるが、その後、茅ヶ崎館を購入し営業を継続したのが、現在の茅ヶ崎館当主森浩章氏の曾祖父に当たる森信次郎氏だった。森信次郎氏は愛知県に生まれ日本郵船会社勤務、兵役などを経て明治38年茅ヶ崎館を経営するに至った。

茅ヶ崎は明治以降東海道線開通や海水浴の流行などを背景に、東京近郊の保養地、別荘地として発展した。湘南の他の別荘地に比して、別荘地としての発展は必ずしも早くなかったものの、明治31年の東海道線茅ヶ崎駅設置、明治32年の結療養所南湖院（現存せず）開設など、明治30年代初頭には茅ヶ崎の発展を促す画期が訪れており、茅ヶ崎館はこうした茅ヶ崎の別荘地・保養地としての歩みを示す貴重な遺構といえよう。

湘南の別荘地においては、海水浴場の設置と同時に、葉山の鍵屋旅館、逗子の養神亭、鶴沼の東屋旅館などいわゆる海浜旅館が設置されており、こうした海浜旅館への潜在の経験が別荘設置の契機となった事例も多く、海浜旅館の存在は湘南の別荘地としての発展を知る上で注目すべき存在である。茅ヶ崎館はそうした湘南の海浜旅館の様相を良く残す稀少な遺構といえ、湘南の文化史上極めて貴重な建築といえる。

また、茅ヶ崎館は戦前から戦後にかけて日本映画界の巨匠故小津安二郎監督が極めて頻繁に逗留し、その風景をこよなく好んだ旅館としてよく知られている。小津は昭和12年には既に茅ヶ崎館を訪れており、その後戦争を挟んで戦後昭和31年頃まで茅ヶ崎館で多くの脚本を執筆した。茅ヶ崎館は小津安二郎ゆかりの旅館として地域の人々にも親しまれており、地域の歴史の中で高い価値を有している。

2. 建築史的価値

昭和2年発行の『神奈川県名譽録』によれば、茅ヶ崎館は茅ヶ崎海岸の高地に立地し、「一望千里の海上を眼下に眺望しうる高燥絶景の地」とあり、現在では人家に遮られ茅ヶ崎館から海岸を眺望することは不可能だが、創建時は海岸まで一帯となった景観の中に建てられていたことが解る。

現在の茅ヶ崎館は玄関棟、広間棟、浴室棟、中2階棟、長屋棟の5つの建物からなる。この内、関東大震災前の創建と伝えられるのは浴室棟の浴室部分のみである。その他の部分はほとんどが大正15年創建と伝えられる。玄関棟玄関部分、広間棟応接室部分、同会議室部分浴室棟客室は後に増改築されているものの、他の部分は大正15年創建時の様相を今日によく伝えている。

内部意匠としては、浴室棟渡り廊下部分の数寄屋風意匠、浴室部分の色ガラスを用いた意匠、広間棟座敷正面の力強い床の間と繊細な付書院からなる座敷飾りなど注目すべき点は多いが、何よりも、座敷、縁側、庭園と連続する居間棟の開放的な佇まいは、海を臨む湘南の海浜旅館ならではの特色といえよう。

したがって、この建物の外観の見せ場は同様に庭側からの外観といえよう。軒高を低く押さえた建物が庭を囲んでこの字に配置され、かつ西側の中2階棟のみ軽やかに高く持ち上げられ、その結果変化ある外観を形作り、心地よい空間を生み出すことに成功している。

また、現存する古写真や先代の記憶から建物の来歴が判明し、かつては現在の長屋棟が広間棟に連続する東西方向に棟を持つ配置だったこと、広間棟は西側はかつて2階建の建物で、その1階部分には外観を含め洋館の意匠が用いられていたことなどが判明する。こうした来歴を知る史料が残されている点も貴重であるといえよう。

以上のように茅ヶ崎館は、茅ヶ崎の別荘地・保養地としての歩みを示しており、湘南の海浜旅館の様相を良く残すほぼ唯一の遺構である点など湘南の文化史上極めて貴重な建築といえる。さらに、日本映画界の巨匠小津安二郎ゆかりの旅館としても高い価値を有している。また、明治32年創建時の建物は関東大震災によってほとんど失われているものの、浴室は関東大震災前のものと判断される貴重な遺構であり、さらに、現存する建物は部分的に改築されているものの基本的には関東大震災後の大正15年再建時の様相を良く伝えており、震災後の茅ヶ崎における海浜旅館建築の様相を今日に伝える貴重な遺構である。